

日本動物看護学会
第15回 関西地区例会
抄録集

開催日：2026年（令和8年）3月8日(日)

会場：神戸動植物環境専門学校



例会長挨拶

日本動物看護学会第15回関西地区例会長
KOBE 三宮動物病院
梶 芙美子

日本動物看護学会は、動物看護学のさらなる発展を目指し活動する学術団体であり、関西地区例会は学会理念の下、研究発表や会員同士の交流の場として、関西の愛玩動物看護師が中心となって企画開催しています。この度は、会場協力をいただきました神戸動植物環境専門学校動物看護師学科2年生の有志8名と共に、運営を行います。関西の地で志を同じくする仲間が集い、学び合えることを大変うれしく思っております。

ご参加いただきました皆さまならびに開催にご尽力いただきました企業様や関係機関各位、会場提供いただきました学校法人 神戸学園 神戸動植物環境専門学校の関係者各位にこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

愛玩動物看護師法の施行により、私たち愛玩動物看護師の専門性と社会的責任はより明確になりました。専門職として、知識や技術の向上はもとより、高い倫理観、説明責任、自己研鑽が求められ、人と動物のより良い共生社会の実現に主体的に関わっていく姿勢が重要ではないかと感じています。動物医療は、もはや診療施設の中だけで完結するものではなく、地域社会、行政、多様な関連職種との連携の中で成り立っていくのだと思います。獣医師をはじめとする医療従事者、動物関連産業従事者、福祉・教育分野の専門職などと協働しながら、それぞれの専門性を尊重し合い、チームとして社会に貢献していくことが、国家資格者としての私たちの責務ではないでしょうか。

今回の例会では、臨床現場課題の研究をはじめとする一般演題、トイレ事情から視野が広がるランチョンセミナーや、他職種連携・対人援助職のソーシャルワーカー(社会福祉士)による基調講演、他業種から動物医療に飛び込んだ愛玩動物看護師・アニマルケアスタッフによるシンポジウムを予定しております。

また、会場内には関連企業・団体の皆さまのご協力のもと展示ブースを設けております。最新の製品情報や取り組みに触れていただける貴重な機会ですので、ぜひお立ち寄りいただき、日々の実践にお役立ていただければ幸いです。

関西は人と人との距離が近く、温かなつながりを大切にする地域です。本日の例会が、知識と技術の向上だけでなく、絆を深め社会へと広がる新たな一歩を生み出す場となれば幸いです。

目次

例会長挨拶	P2
開催案内	P4
例会運営についてのお願い	P5
会場へのアクセス	P6
フロアマップ	P7
タイムスケジュール	P8
一般演題発表	P9
ランチョンセミナー	P15
日本の猫トイレは世界の非常識！？～健全な猫トイレ環境の最適解を考える～	
基調講演	P17
コミュニケーション理論と信頼関係の構築	
～愛玩動物看護師と飼い主を繋ぐ、対人援助の視点から～	
シンポジウム	P19
他業種からの転職 ～愛玩動物看護師の魅力を再発見！～	

開催案内

日本動物看護学会 第15回関西地区例会

開催日

2026年3月8日

会場

神戸動植物環境専門学校

例会長

梶 芙美子

主催

一般社団法人日本動物看護学会 第15回関西地区例会

例会運営についてのお願い

参加者の方へ

- 事前登録者は受付でお名前をお伝えください。名札をお渡しいたします。
- この抄録集は当日ご持参くださいますようお願いいたします。
- 事前申込方は、受付で参加費（会員 3,500 円、非会員 4,500 円、学生 1,000 円）を支払い、名札をお受け取り下さい。
- 当日申込の方は、受付で参加費(会員 4,000 円、非会員 5,000 円、学生 1,500 円)を支払い、名札をお受け取りください。
- 学生の方は、学生証をご提示ください。
- 大会中は名札のご着用をお願いいたします
- クロークを設置しています。詳細は当日クロークにてお尋ねください。なお、貴重品や壊れ物等のお預かりはできません。

口頭発表の方へ

- 発表データ・持参 PC の確認を 9:45～10:15 に行います。本会場へお越しください。
- PC のご持参をお願いします。コネクタも必ずご持参ください。
- 発表 8 分・質疑応答 2 分の計 10 分間です。持ち時間を厳守してください。
- 次の発表者は、前の発表が始まる前までに次演者席にご着席ください。
- 発表の際は、発表者本人によるパソコン操作をお願いいたします。

懇親会

- 懇親会は 18:00～19:15 に当会場にて行います。参加費（一般 3,000 円、学生 2,000 円）は当日、受付にてお支払いください。

地区例会の開催可否のご連絡および非常時の避難経路等について

- 災害が予想されるような悪天候および震災等の緊急事態時については例会長および例会事務局にて開催の可否を決定の後、中止の判断が出た時に限り、下記、本例会ホームページを使用して周知します。前日までに上記の決定があった場合には 3 月 7 日（土）の午前 11 時を目途に掲載予定です。詳しくは例会事務局までお問合せください。

日本動物看護学会 第 15 回関西地区例会ホームページ

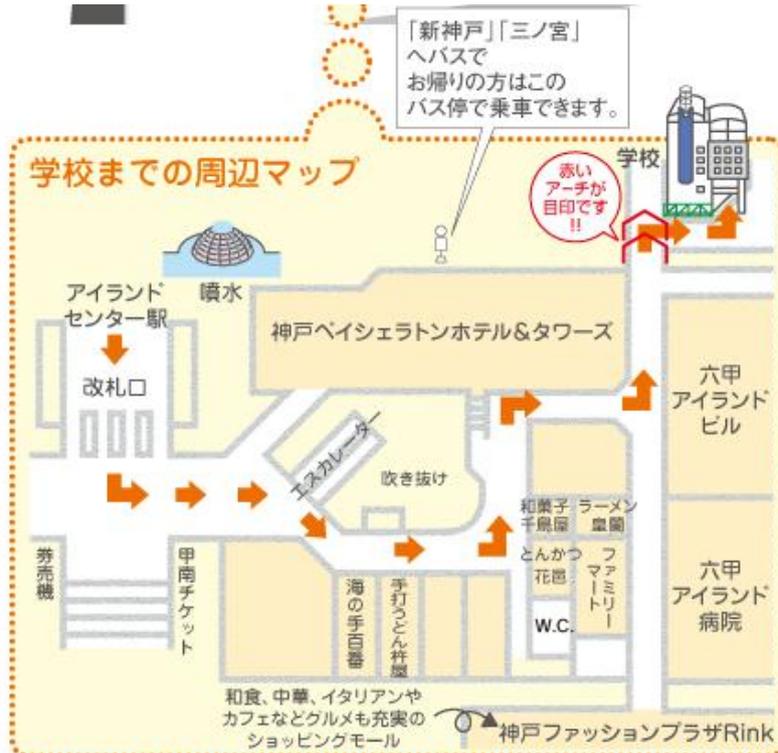
<https://kansaireikai.wixsite.com/jimukyoku>

- 非常時の避難経路については各会場スタッフの指示に従ってください。

会場での注意事項

- 会場となる神戸動植物環境専門学校敷地内および周辺は全面禁煙です(喫煙所はございません)。また、会場周囲での路上喫煙もご遠慮ください。
- 利用者専用の駐車場はありません。公共交通機関をご利用の上、お越しください。

会場へのアクセス



会場案内



学校法人 神戸学院
神戸動植物環境専門学校



学校法人神戸学院 兵庫県芦屋市の専門学校
専門学校アートカレッジ神戸



懇親会会場
708号室

講演会場
ジュリアホール

例会受付

タイムスケジュール

10:00～10:30 開会

10:45～11:55 一般演題発表

12:00～13:00 ランチョンセミナー

「日本の猫トイレは世界の非常識！？～健全な猫トイレ環境の最適解を考える～」

株式会社 Buddy Cloud 山内 かおり

13:30～15:30 基調講演

「コミュニケーション理論と信頼関係の構築

愛玩動物看護師と飼い主を繋ぐ、対人援助の視点から」

株式会社NTT データライフデザイン

ソーシャルワーカー・社会福祉士 岡江 晃児

16:00～17:30 シンポジウム

17:30 閉会

18:00～19:15 懇親会

一般演題発表

口頭発表 8分/質疑応答 2分

1～5

学生と現職者の就職先に対する意識比較

○西 景子・梶 芙美子・奥井 裕子・金井 優佳・小齊平 美樹・木村 友亮・丸山 帆夏
第14回 関西地区例会運営

【序文】

前回の関西地区例会の企画において、学生および現職の愛玩動物看護師それぞれに対し、相互に聞いてみたい内容を挙げてもらい、その結果を共有する取り組みを行った。そこで得られたアンケート結果の一部から就職前の学生が抱く職場イメージと、現職者が実際に経験している労働環境や職場観との間に、意識の差が存在する可能性が示唆されると考えた。愛玩動物看護師の国家資格化により、専門職としての役割や責任は拡大している一方で、就職後の職場適応や勤務継続に関する課題は依然として指摘されている。

そこで本調査では、前回例会で実施したアンケート結果の一部を用い、学生と現職者それぞれの就職先に対する価値観や期待について比較検討を行った。両者の意識の違いを明らかにするとともに、愛玩動物看護師が勤務し続けたい職場環境について検討することを目的とし、本発表に至った。

【方法】

前回例会の申込者を対象に、Google フォームを用いた Web アンケート調査を実施した。対象は学生 59 名、現職者 49 名とした。今回用いたアンケート結果項目は、就職先を選択する際に重視する条件(両者)、インターン・実習時の職場印象(学生)、新人に求める資質(現職者)、業務に対するやりがい、転職経験およびその理由とした。自由記述回答については内容を分類し、傾向を整理した。

【結果】

学生では、就職先選択において「スタッフの雰囲気」「業務内容」「給与」「社会保障や福利厚生」を重視する傾向が認められた。インターン・実習では、スタッフ間の円滑なコミュニケーションや丁寧な指導が良好な印象として挙げられた一方、指導不足や高圧的な対応、人間関係の悪さは否定的な印象として多く報告された。対して現職者では、就職時の基準として「通勤時間」「福利厚生」「業務内容」を重視していた。また、新人に対しては、専門的技術よりも「一般常識」「素直さ」「コミュニケーション能力」「積極性」といった態度面を重視する傾向がみられた。やりがいについては、業務を任せられることや飼い主・動物との信頼関係の構築、新たな知識や技術を臨床で活用できた場面に見いだされていた。

【考察】

本調査から、学生は就職先に対し、安心して働き続けられる人間関係や教育体制を重視しているのに対し、現職者は自身の努力や成長を評価され、役割や責任を任せられる環境を重視していることが明らかとなった。これは、実務経験を経て職場観が「単なる職場の雰囲気」から「職業的成長や自己効力感」へと関心が移行するためと考えられる。

私たちが求めている職場環境とは、十分な労働条件や教育体制が整備されているだけでなく、個々の業務成果や姿勢が適切に評価され、フィードバックを通じて成長を実感できる環境であると考えられる。また、現職者がやりがいを持ち主体的に働く姿勢は、学生にとって職場選択時の重要な判断材料となる。この職場全体の好循環は患者動物とその飼い主へのより良い動物医療提供にもつながるのではないかと考える。

本調査では地域差や質問項目の違いによる偏りが課題として挙げられ、今後はより統一した調査設計や継続的な追跡調査が求められる。

企業に勤務する愛玩動物看護師のキャリア形成に関する一事例 —動物診療施設以外の職域における専門性の活用—

○ 岩本 杏
ロート製薬株式会社

愛玩動物看護師は、主に動物診療施設において獣医療を支える専門職として発展してきた。近年、国家資格化により、その専門性の明確化と社会的役割の拡大が期待されている。農林水産省の愛玩動物看護師就職状況調査によると、愛玩動物看護師の養成所卒業後に動物診療施設へ進む者は約82%、企業就職は約10%であった。一方、愛玩動物看護師を養成する大学卒業後に動物診療施設へ進む者は約66%、企業就職は約21%であり、このうち愛玩動物関係企業への就職は約5%にとどまっている。

本発表では「企業に勤務する愛玩動物看護師」である発表者の事例を通じて、動物診療施設以外におけるキャリア形成の実際と、企業での動物看護師としての専門性の活用について発表する。

発表者は幼少期より動物に関心を持ち、愛玩動物看護師を養成する大学に入学した。在学中は、研究活動および動物病院での実習を通じて、動物に関わる職域が動物診療施設に限られないこと、ならびに臨床現場の現実を認識した。就職活動では動物の健康に貢献したいという軸を持ちながらも、動物に限らず幅広い分野を対象に行った。人の健康に貢献する企業の就職活動においても、動物の健康にも貢献したいという軸を持ち続け、結果として、人の製薬会社の新規事業として動物事業に従事している。

現在は、動物病院で取り扱う犬用スキンケア製品のマーケティングや営業を担当しており、その中で愛玩動物看護の専門性が生かせたと感じたことは2つある。1つ目は獣医療従事者と飼い主の両方の視点を持ち、提案ができる点である。犬用スキンケア製品を検討している際、獣医療従事者は犬スキンケアでの課題点として「スキンケア製品のエビデンスの乏しさ」をあげており、一方で飼い主の課題感として「犬に対してスキンケアのやり方が分からない」ことがあった。これらの課題に対し、スキンケアの方法がイメージしやすいように使用方法動画の作成や、SNSを通じた情報発信などの工夫を行った。また、商品を使用した動物の臨床データを取りエビデンスをまとめ、双方に寄り添った提案を行った。動物病院への営業活動では、動物の皮膚構造や生理に関する基礎的知識をもとに説明することで、獣医療従事者との円滑な情報共有に寄与した。2つ目は、専門的知識を有する立場としての信頼形成である。獣医療従事者との対話の中で、私は「企業の人」ではなく、「愛玩動物看護師」としての側面を強く認識される場面が多いと感じている。動物病院という専門性の高い環境において、共通言語で話すことができることは、動物病院で商品を扱う立場として、企業と現場をつなぐ媒介者としての役割を果たせていると感じている。

本事例では、愛玩動物看護師が動物診療施設以外の分野においても、専門性を活かす場面があることを示唆した。発表者は仕事の中で直接動物に関わることは少ないが、企業勤務においても動物の健康に貢献する関わり方は存在する。今後、愛玩動物看護師の活躍の場をさらに広げていくためには、企業を含む多様な分野における具体的な事例の共有や、学生が多様な進路を知る機会を充実させていくことが重要であると考えられる。

引用文献

農林水産省（2023–2025）愛玩動物看護師就職状況等調査

犬の心電図検査におけるストレス軽減を目的とした自由体位の再検討

○丸山帆夏・森尚志
ダクタリ動物病院 京都医療センター

序文

犬の心電図検査は、心疾患の評価や麻酔前検査において重要であるが、保定や環境によるストレスが測定結果への影響を考慮する必要がある。先行研究では、心電図測定時に自由体位においてストレス軽減の可能性が示唆された。しかし、少ない症例数、環境要因、評価指標に課題が残った。そこで本研究では、症例数を増やし、測定環境および体位条件を統一した上で、ストレス軽減を目的とした自由体位の可能性を再検討した。

材料および方法

本研究は、2025年6月11日～11月30日を調査期間とし、麻酔前検査または院内での健康診断を行った看護動物を対象とした。閉鎖空間にて測定後に開放空間で測定する手順を厳守し、体動および緊張については段階評価法を用い記録した。

結果

自由体位から右横臥位への測定において、心電図波形の変化は29頭中7頭に認められた。アーチファクトは、閉鎖空間では自由体位で65%、右横臥位で30%に認められた。一方、開放空間では自由体位で63%、右横臥位で65%であり、体位差は小さく、環境差が認められた。体動の評価では、自由体位において閉鎖空間および開放空間ともに評価0～1が大半を占め、評価3以上は開放空間で1頭のみであった。一方、右横臥位では評価3以上が閉鎖空間で2頭、開放空間で4頭認められた。緊張の評価では、自由体位よりも右横臥位で評価3の結果が多く、特に開放空間で増加した。攻撃性は右横臥位変換時に2頭認められた。また、右横臥位時に心拍数が低下する看護動物が認められ、10回/分以上の変化は閉鎖空間で16頭、開放空間で11頭であった。

考察

測定体位による心電図波形の大きな変化は、先行研究同様に認められなかった。アーチファクトの有無では、開放空間において測定体位による差がほとんど認められなかった一方、閉鎖空間では右横臥位の方が少なく、測定環境が心電図波形に影響を及ぼすことが示唆された。体動および緊張の評価では、測定環境にかかわらず自由体位において評価0～1が多く、右横臥位と比較しストレスが軽度である傾向が認められた。一方、右横臥位では体位変換時に体動や緊張の増加、攻撃性を示す看護動物が認められ、保定によるストレスが原因であると考えられる。一方、心拍数は右横臥位で低下例が多く、必ずしもストレスの程度を直接反映する指標ではないと考えられる。この結果は、体動や緊張の評価と必ずしも一致しない点で、当初の想定とは異なった。人医療分野では体位による心拍数変化が報告されているが、獣医療分野での検討は十分に行われていないのが現状である。¹⁾ 測定体位が心拍数および測定結果に及ぼす影響については今後さらなる検討が必要であると考えられる。

本研究において、自由体位は右横臥位の測定に比べ、心電図波形への影響を大きく変化させず、体動および緊張が比較的軽度であることから、看護動物へのストレス軽減が示唆された。一方、測定環境および体位条件を統一することで測定誤差の低減を図ったが、体動や緊張の評価には段階評価法を用いており、評価者の主観が介在する可能性があった。今後の展望として複数評価者による評価一致度の検討の研究を計画したい。

参考文献

1) 古川順光 (2012) 姿勢保持・変換時における心拍数変化の分析 理学療法学 Supplement

眼科専門動物病院における入院患者共有の取り組みとその成果

○大島見奈 辻田裕規
どうぶつ眼科専門クリニック

【序文】

動物医療現場において、患者情報の共有は安全な医療提供、業務の効率化に大きく寄与すると考えられる。専門病院においては、複数の獣医師及び動物看護師等が1頭の患者に関わるため、患者共有は安全で質の高い医療を提供する上で重要である。

本研究では、眼科専門病院である当院における入院患者の情報共有への取り組みとその成果について報告する。

【材料及び方法】

当院では動物の安全を第一に、2023年8月から入院患者の事前情報共有には、googleスプレッドシートで作成した共有ボードを使用し、2025年6月から入院中の患者情報共有には電子カルテAhmics社ホワイトボード機能を利用して管理及び共有している。

2026年現在当院に勤務するスタッフ（n=10）を対象に、患者共有に関するアンケート調査を実施した。調査内容は、現在の入院患者情報の共有方法での過不足、業務負担、また入院中の情報共有での過不足と課題等とした。

アンケート結果と、それぞれの導入前と比較しての業務ミスの発生状況を比較することで評価した。

【結果】

アンケートの結果は、入院患者事前情報への不足を感じないが60%、不足を感じるが10%、どちらとも言えないが20%、情報過多と感じるかの問いに対しては感じないが100%、情報入力の大変さに対する問いに対しては大変だと感じないが50%、大変だと感じるが20%という結果であった。

2023年8月以前の情報共有方法と比較しての問いに対しては83.3%が良くなったと答え、83.3%が共有にかかる時間が減ったと答えた。

入院中の患者情報共有のアンケート結果は、電子化によって業務ミスが減ったと答えたのが75%で、2025年6月の電子カルテ管理導入後の業務ミスは導入前と比較して約6割減少した。

【考察】

入院患者事前情報共有に関しては情報量に不足なく共有ができ、また業務の削減にも繋がっている結果となったが、一部で情報の不足や業務負担となっていることが明確になった。

多職種が連携するチーム医療の重要性は人医療においても指摘されている。¹⁾ 当院では動物に直接触れないスタッフにも入院患者の身体、看護、環境的な情報を共有することで、病院全体でその家族から動物を安全に預かる体制を実現化している。

入院動物の情報共有では、動物のバイタルや点眼などの必要な対応が指示通りになされているかが現在の共有媒体により容易に確認することができ、動物にとってはより安全な入院管理体制を取ることを可能としている。

患者情報の共有不足は業務ミスや医療安全上のリスクに繋がると考えられ、医療現場において情報共有の不足はインシデントの要因の1つとされている。²⁾

今後もより安全に動物を受け入れるための情報共有方法を検討し取り入れていきたい。

引用文献

¹⁾ 厚生労働省. チーム医療の促進について. ²⁾ 日本医療機能評価機構. 医療安全情報.

愛玩動物看護師の非常勤講師活動に関する調査

○大坪優太
草津犬猫病院

序文

自身の愛玩動物看護師としてのスキルアップを目的に、専門学校で非常勤講師を3年間継続した。その結果、知識をインプットするだけでなく、アウトプットにつなげられ人に教えるために深い知識を追求する習慣が身についた。一方で、授業の準備時間や作業の多さには一定の苦労もあった。総合的にはスキルアップに大きく貢献しており、互いに相乗効果をもたらしながら、役立つ働き方であったと感じる。同様に働く人たちがどのように考え、問題点を持っているのか調査することで、メリットや課題を掘り起こし、それを考察していくことで、このような働き方がよりメジャーとなっていくことを期待し、今回の調査を考えた。

材料および方法

非常勤講師の経験を持つ関西在住の愛玩動物看護師18名を対象に、2025年11月10日から2025年12月20日までアンケート調査を実施した。調査項目は、非常勤講師活動のきっかけ、活動における意識、キャリアへの影響などに関する自由記述等とした。アンケートの自由記述については、ポジティブワード「経験」「広がる」「復習」「楽しい」と、ネガティブワード「大変」「時間がかかる」「授業準備」を設定し、その割合を調査した。

結果

回答者の臨床経験年数は、「1-3年」が1名(5.6%)、「4-9年」が8名(44.4%)、「10年以上」が9名(50.0%)、非常勤講師歴は「1年未満」が1名(5.5%)、「1-3年」が9名(50%)、「4-9年」が5名(27.8%)、「10年以上」が3名(16.7%) また、ポジティブワードは18名(100%) 記入があった。ネガティブワードは10名(55.5%) で、その全てが非常勤講師歴3年未満であった。

考察

回答者の55.5%が非常勤講師歴3年未満であったことは、2022年から専門学校におけるコアカリキュラムが2年制から3年制になり、講師増員が求められた結果ではないかと考える。回答者の100%にポジティブワードが含まれており、非常勤講師としての教育活動は、本人に様々な良い結果をもたらしていると考えられる。一方で、非常勤講師歴3年未満の人にネガティブワードが100%みられた理由として、初めは手探りで進めているからではないかと感じた。また、非常勤講師歴を重ねるにつれてネガティブワードが減少した理由としては、過去に作成した教材を有効活用することが可能となり、準備に関する負担は軽減されている為だと考えられる。これらから、非常勤講師活動を継続するには苦労も感じているが、それらを上回るメリットを享受していると言える。ただし、一方的な考えではなく、今後は、学校や勤務病院などの様々な意見を聴取し、非常勤講師の価値を高めていきたい。

参考資料 農林水産省 第3回愛玩動物看護師カリキュラム等検討会ワーキングチーム(2020) 愛玩動物看護師の養成に必要な科目について(認定動物看護師コアカリキュラムとの比較を含む)(2021) 2026. 2. 6

ランチオンセミナー

日本のネコトイレは世界の非常識！？

～健全な猫トイレ環境の最適解を考える～

講師：山内 かおり

株式会社 Buddy Cloud

日本の猫トイレは世界の非常識！？

～ 健全な猫トイレ環境の最適解を考える ～

○山内 かおり

株式会社 Buddy Cloud

【本文】

本講演は、日本の生活文化に起因する猫トイレの独自の発展の背景と、その潜在的な課題を明らかにし

猫の健康と幸福度を最大限に高めるための猫トイレ環境の最適解を探ることを目的とします。

演者は、年間5～8カ国を周り、世界中のペット展示会やペットショップ、ペット関連事業の市場調査を行ってきました。

その経験を元に、世界のペット市場、特に過去3～5年のグローバルトレンドの変化と、その日本市場への影響をご紹介します。

特に、筆者が長年、猫の排泄トラブルに取り組んできた背景から、今回は猫のトイレ商材に焦点をあて、各国の特徴や傾向を解説します。

また、日本のスタンダードな猫トイレが世界的に見て非常に珍しく独自に発展した背景や、その特異な環境が日本の猫の排泄ストレスを無意識に高めている可能性があることを共有します。

本知見は、飼い主の負担を減らしつつ、猫のQOL（生活の質）を向上させるため、実用的なガイドラインを踏まえ最適な猫のトイレ環境をご提案します。

【キーワード】 猫、トイレ環境、海外、QOL、問題行動

基調講演

コミュニケーション理論と信頼関係の構築

～愛玩動物看護師と飼い主を繋ぐ、

対人援助の視点から～

講師：岡江 晃児

株式会社 NTT データライフデザイン

コミュニケーション理論と信頼関係の構築 ～愛玩動物看護師と飼い主を繋ぐ、対人援助の視点から～

ソーシャルワーカー・社会福祉士
株式会社NTT データライフデザイン
岡江晃児



1. はじめに：なぜ今、動物医療にソーシャルワークの視点が必要か

愛玩動物看護師が国家資格化され、動物医療における専門性の向上と共に、業務の幅はより広範かつ深化している。その中でも、診療補助や看護技術と並んで重要な役割を果たすのが、飼い主とのコミュニケーションであろう。

動物医療の現場は、言葉を話せない動物を介し、飼い主という「他者」との意思疎通が不可欠な場である。そこには飼い主の不安、経済的な苦悩、終末期における意思決定の葛藤、そしてペットロスといった複雑な感情が渦巻いている。こうした多角的な課題を抱える相手を支えるスキルは、社会福祉の領域で培われてきた「ソーシャルワーク」の専門性と多くの共通点を持つ。

本講演では、ソーシャルワークにおけるコミュニケーション理論を基軸に、愛玩動物看護師が飼い主と強固な信頼関係を築くための具体的なアプローチについて紹介する。日々の多忙な業務の中で、改めて「コミュニケーション」という目に見えない技術の価値を見つめ直し、明日からの臨床現場に一筋の光を投じる機会となれば幸いである。

<略歴>

平成 17 年 4 月 国立病院機構大分医療センター
平成 30 年 4 月 杵築市役所医療介護連携課
令和 4 年 10 月 公益財団法人がん研究会有明病院
令和 6 年 10 月 最首総合事務所グループ一般社団法人愛の会
令和 7 年 11 月 株式会社NTT データ ライフデザイン 事業開発本部
現在に至る

- ・大分大学大学院福祉社会科学科修士課程修了（福祉社会科学）
- ・日本文理大学非常勤講師
- ・全国終身サポート事業ソーシャルワーカー研究会共同代表
- ・ワーキングケアラー支援ソーシャルワーカー研究会共同代表
- ・アニマルソーシャルワーカー研究協会 アドバイザー
- ・著書「8000 人を支援したソーシャルワーカーが教える 入院・転院・退院の困りごと完全解決！」（Gakken/メディカル・ケア・サービス（2026/02/26））



シンポジウム
他業種からの転職
～愛玩動物看護師の魅力を再発見！～

講演者

小原 洋子（ひょうたん山動物医療センター）

石原 昌代（神戸動植物環境専門学校）

北畠 朋（いなば動物病院）

（50音順、敬称略）

他業種から愛玩動物看護師へ —経験の違いから見えてきた職域と今後の可能性—

小原 洋子

ひょうたん山動物医療センター

前職では、電機メーカーに勤務し、受電によるお客様対応を中心とした業務に携わってきた。クレーム対応を主とする部署への異動を機に精神的負担が大きくなり退職し、その後は派遣としてさまざまな職種を経験した。そうした中、子猫を保護したことをきっかけに動物病院を受診し、獣医師のほかに、動物の看護を担うスタッフに関わる現場があることを知り、獣医療分野へ進むことを決意した。

私は専門教育機関を卒業しておらず、知識や経験のない状態からのスタートであったため、日々学びの連続であった。慣れない業務に戸惑いながらも、動物たちの役に立ちたい、飼い主に寄り添える存在でありたいという思いを支えに経験を重ね、現在は愛玩動物看護師として18年目を迎えている。

前職で培った対人対応やクレーム対応の経験は、動物病院における飼い主対応やトラブル発生時の初期対応において活かされ、信頼関係の構築につながった。また、社会人経験を有する立場として、若手スタッフへの助言や教育を担う役割を任される機会も増えていった。

一方で、この業界に身を置く中で、愛玩動物看護師の離職率の高さを強く感じてきた。結婚や出産といった人生の節目を機に動物病院を退職する例も多く、退職後に同業種でキャリアを継続する例は限られ、多くが他業種へ転身している現状がある。

愛玩動物看護師は国家資格として歩み始めたばかりの職種である。獣医療の向上と適正な看護の実現を目的として制度化された資格であるからこそ、一生の仕事として関わり続けるための在り方を考える必要があるのではないかと感じている。

本発表では、たとえ動物病院という現場を離れることがあったとしても、国家資格とこれまで培ってきた知識や経験を生かし、ペットや飼い主を支える関わり方ができるのではないかという視点から、高齢者のペット飼育問題や、家庭内だけで抱え込まれがちなペットの世話・介護の問題に対し、愛玩動物看護師としてどのようなアプローチが可能か、模索している現状を共有したい。

どこを軸にするかで生き方が変わる -小さなありがとう、に気づける素適な仕事-

石原 昌代
神戸動植物環境専門学校

私は、短期大学を卒業して企業に就職し、10年ほどOLを経験した後、動物業界へ転職、今は、動物系専門学校、動物病院ともに非常勤として勤務している。

動物看護師、という仕事が大好きで、紆余曲折あり、我慢が嫌いで苦手な体質でも、今も続けているほど私にとって魅力的な仕事である。

物事には、良いこと楽しいことメリット、ばかりではなく、必ずその反対側も存在している。

「表裏一体」「プラスマイナス」「一長一短」などの言葉に共感しており、私にとっては脳を心地よく、いい意味で諦めさせてくれる言葉であるが、今回、どのような経緯や出来事を経て、動物看護師の今に至ったか、「喜怒哀楽」を用いて話してみようと思う。

前職は、不動産会社で、宅地建物取引士という国家資格を取得し、不動産契約に関わる書類作成や顧客への説明などを担当、私にとっての会社員時代は、仕事もプライベートも満喫できていたはずなのに、何かモヤモヤと快晴ではない、そんな時代だった。

人生の転機が訪れる。犬のトレーニングをしっかりと学ぶ為、学校に通いはじめ、保護活動、ボランティアにも参加しだした。その頃に出会った獣医さんとの縁がきっかけで、動物病院で働かせてもらうことになる。最初は、病院内の事務処理や会計をメインにししながら、少しずつ臨床を教えて頂き、医療学会の参加、通信教育などで足りない知識を一から学び、実技は現場で修業のたたき上げ、統一認定看護師の資格を取得する。

当時、私を育てて下さった動物病院のドクターと先輩方には感謝、今は心からそう思っている。

動物病院で働くまで、普通の愛犬家、愛猫家であった私は、決して、素直で真面目な飼い主ではなかった。また、職場の人材としても、10年以上の会社員経験から、人間関係や対応に慣れている部分もあれば、それが裏目にも出る扱いにくい人材だったと振り返る。

しかし、これらの自分の経験やスタンスが、今、専門学校での講師としても、動物病院でのクライアントエデュケーションにも、反面教師として強みになっていると感じている。

私の初心、殺処分をなくしたい、幸せに生涯を全うできる子を増やしたい、これらは今も自身のモチベーションになっているが、動物看護師が国家資格化するにあたり、適正飼養指導がカリキュラムに編成された。国からも動物看護師に求められている分野であり、愛玩動物看護師が適正飼養指導を適切に実施していくことは、不幸な子を減らす一助になると感じている。

また、そのような活動が実施できる愛玩動物看護師が増える事で、人と動物の共存社会の未来はより良くなると考える。

参考資料 環境省 愛玩動物看護師法 愛玩動物看護師カリキュラム 愛護・適正飼養学

イギリス留学と人の看護師経験から、日本の動物看護の現場で考えていること

北島 朋¹⁾

1)いなば動物病院

私は高校卒業後、イギリスの田舎の大学に留学し、看護学部へ進学した。卒業後現地の病院で働き、その後オーストラリアにワーキングホリデーで渡豪、7年の海外生活を経て日本に帰国した。その後介護職に就いたが、家族で飼っていた愛犬の看取りをきっかけに、獣看護に進むことを決意した。

今回、人の看護師経験を通して、私が動物看護の現場で感じていることを紹介する。私の話が、誰かの動物看護を考える上で、少しでも参考になれば幸いである。

1. チームワークや多職種連携という考え方

私が動物看護を始めた時に驚いたのが、人では細分化されて別の職業として独立している分野を、看護師が担っている事だった。薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、栄養士、はては飼い主さんの心理カウンセラーもこなさなければならない。始めは正しく実践できているのかわからず、かといって質問できる専門職が居ないというのは不安であった。

まだまだ先の話かもしれないが、私は獣医療の世界にも細分化の時代がやってくると考えている。すでに治療の分野では循環器科、歯科、オンコロジー科など専門医療に分かれてきている。また理学療法の分野では、日本理学療法士協会の中に「動物に対する理学療法部門」が立ち上がり、人から獣医療へのアプローチが試みられている^{*1}。欧米では、人の理学療法士が動物の勉強をして動物理学療法士になることが一般的で、例えばオーストラリアでは動物の理学療法士コースへの入学は人の理学療法士の資格を持つことが大前提である。日本もこのような流れに追随することになるのではないかと考えている。

また専門性に分かれた多職種の中で、看護師の役割とはどのようになっていくのか。それは、他のエキスパートの仕事内容を正しく把握し、上手に連携を取っていくことであると考えている。細分化された職業の案内役として、患者さんに一番良いアプローチを提案できるようになればいいと思う。

2. 看護理論の実践

多くの動物病院は入院患者の管理に加えて外来がメインの業務になるわけだが、診察補助や検査も看護師の役割であり、どうしても獣医師の補助的な存在になりがちだ。私に外来勤務の経験がなかったこともあり、始めは作業や受け身になる業務ばかりに思え、どのように外来診察で看護過程を実践できるのだろうかと考えるようになった。

そこで体系的にアプローチする方法として思いついたのが、看護理論の適応である。これを問診時に組み込む事で、看護過程を短時間で回すことができないだろうか。イギリスでは入院時ADLチェックに活用されていた。もちろん病棟看護と外来看護が全て同じではないし、人と動物は同じではないが、人の看護理論を動物向けに改訂したアビリティーモデルがあるように、基本項目は問題なく活用できると考えている^{*2}。また今後、日本の動物看護に沿った看護理論が出てくることにも期待したい。

3. メンタルケアについて

少しそれるかもしれないが、ここで私がイギリスの大学で受けた、カリキュラムの一つをご紹介します。それは、例えば仕事で受けた精神的なストレスとの向き合い方や、内部告発の授業とい

った、看護という仕事において少なからず直面する、様々な負の一面を考える授業があったことだ。

人も動物も、命を扱う医療分野では倫理問題は常に付きまとう。人を相手にする仕事である以上、価値観の違いや人間関係からくるストレスなども発生する。私たちは決して機械ではない。患者さんの死に動揺することもあるれば、ご家族が決定した治療方針に疑問を持つこともある。新しい職場でのおかしな習慣に疑問を抱くこともあるかもしれない。小さなことでも積み重なれば、仕事を続けるモチベーションにも影響しかねない。

イギリスでは、こういった仕事のストレスに、どう自分の気持ちと向き合うのか、内省(Reflection)という方法を通して心理学的に分析する課題であったり、法律的に正しい方向はどれか、などを議論する授業があった。授業を通して自分の行動の傾向を発見したり、人間関係のもやもやを解消する術を身につける。こういったスキルが社会人として生きていく上で重要なことは想像に難くない。

繰り返すが、看護はとてもストレスフルな職業である。仕事を続けるうえで、メンタルケアは欠かせないと感じる。日本の専門学校でも「PDCA サイクル」のような業務改善の理論が紹介されているようだが、行動分析やメンタルケアの範囲まではカバーできていないように感じる。現場に出てから学ぶことも多いが、学生の間でこういったスキルを身につけておくことが、長く仕事を続けるポイントになるのではないだろうか。

最期に、今回のシンポジウムの主題が「職域拡大への可能性」であることから、転職について触れておきたい。事務職から遺跡発掘まで様々な仕事を経験してきたが、どんな職種でも、人が関わっている限り、看護に通ずるものはあると感じている。いろんな視点を持った看護師が活躍してほしいと思う。また前述したとおり、今後動物医療病界にも様々な専門家が関わってくると考える。看護とは別のアプローチで患者と関わる仕事が増え、動物医療に関わりたい全ての人達の職業選択の幅も広がると嬉しいと思っている。

参考文献

1. 動物に対する理学療法部会, 公益社団法人 理学療法士協会,
<https://www.japanpt.or.jp/pt/function/subcommittee/animal/> (2026年1月30日閲覧)
2. Nelson, D., (2015) Using the ability model to design and implement a patient care plan, *The Veterinary Nurse*, 6(3), 141-149.

日本動物看護学会 第15回関西地区例会 実行組織

例会長 梶 芙美子 (KOBE 三宮動物病院)

運営委員 奥井 裕子 (KyotoAR 動物高度医療センター)

金井 優佳 (のびペットクリニック)

木村 友亮 (泉南動物病院)

桐村 佳那 (Con tutti ーコントゥッティー)

小齊平 美樹 (佐々木どうぶつ病院)

中嶋 香織 (松原動物病院)

西 景子 (オリーブ動物医療センター)

丸山 帆夏 (ダクタリ動物病院京都医療センター)

神戸動植物環境専門学校 動物看護学科 2年生 有志8名

相談役 阿部 令子 (一般社団法人 日本動物看護学会理事)

井田 竜馬 (一般社団法人 日本動物看護学会社員)

崎山 法子 (一般社団法人 日本動物看護学会理事)

(50音順、敬称略)

お断り：本誌に掲載された全ての記事内容は無断で複写・複製 (コピー)・転載することを禁止します。